

史跡横須賀城跡II

昭和60年度保存修理事業概報

1986

大須賀町教育委員会



史跡横須賀城跡II

昭和60年度保存修理事業概報

1986

大須賀町教育委員会

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
829
830
831
832
833
834
835
836
837
838
839
839
840
841
842
843
844
845
846
847
848
849
849
850
851
852
853
854
855
856
857
858
859
859
860
861
862
863
864
865
866
867
868
869
869
870
871
872
873
874
875
876
877
878
879
879
880
881
882
883
884
885
886
887
888
889
889
890
891
892
893
894
895
896
897
898
899
900
901
902
903
904
905
906
907
908
909
909
910
911
912
913
914
915
916
917
918
919
919
920
921
922
923
924
925
926
927
928
929
929
930
931
932
933
934
935
936
937
938
939
939
940
941
942
943
944
945
946
947
948
949
949
950
951
952
953
954
955
956
957
958
959
959
960
961
962
963
964
965
966
967
968
969
969
970
971
972
973
974
975
976
977
978
979
979
980
981
982
983
984
985
986
987
988
989
989
990
991
992
993
994
995
996
997
998
999
1000

序

史跡「横須賀城跡」は、小笠山地の南端の丘陵地に位置し、遠州灘に面しています。その本丸跡からは、東は御前崎海岸から、西は浅羽、磐田平野を経て、天竜川、浜松方面が一望できる景観のすぐれた場所でもあります。

また、かつては入海だった遠州灘の良港があり、相良・浜松へ通ずる浜街道を抑え、水陸交通の要の地として、典型的城下町を形成し繁栄していました。

明治維新による廢城以来、荒廃のめだった横須賀城跡は、昭和56年5月8日付の国の史跡指定以後、国及び県のご支援と、町民、とりわけ土地所有者の支持・協力のもとに、保存のための事業が推進され、成果をあげてきました。

この度は、昨年に引き続いて、保存修理事業の一環として、発掘調査が実施され、城地の内容が次第に解明されてまいりました。

事業の遂行にあたりましては、整備委員として大正大学名誉教授斎藤忠先生・静岡大学助教授小和田哲男先生・奈良国立文化財研究所高瀬要一先生から種々ご指導をいただきました。さらに、県教育委員会文化課の諸先生方、中でも、及川・山田両先生には、現地調査に当たっていただくなど、格別なご配慮をたまわりました。あらためて厚くお礼申しあげます。

本書は、横須賀城跡の復元整備にとって、貴重な資料であるばかりでなく、一般の方々にも、郷土の歴史書として、ひろく活用されることを念願するものです。

昭和61年3月

静岡県小笠郡大須賀町教育委員会

教育長 戸塚常雄

例　　言

1. 本書は静岡県小笠郡大須賀町に所在する史跡横須賀城跡の昭和60年度保存修理事業の概報である。
2. 保存修理事業は文化庁・静岡県の補助・指導をうけて、大須賀町教育委員会が実施した。
3. 保存修理事業に伴う発掘調査は、斎藤忠（大正大学名誉教授）・小和田哲男（静岡大学助教授）・高瀬要一（奈良国立文化財研究所）の指導のもと、静岡県教育委員会文化課の及川司・山田元広の両名が担当した。調査に関する事務は大須賀町教育委員会事務局があたった。
4. 本書の執筆分担は以下の通りである。

第Ⅰ章 松 本 すが子 第Ⅱ章 及 川 司 第Ⅲ章 斎 藤 忠

5. 発掘調査資料の整理には、県教育委員会文化課清水整理保管室の杉田充恵・秋山よしのの協力を得た。なお、本書の編集は及川があたった。
6. 発掘調査に係わる資料は大須賀町教育委員会が保管している。

史跡横須賀城跡 II

昭和60年度保存修理事業概報

目 次

序

例 言

目 次

第 I 章 昭和60年度の事業概要	1
第 II 章 発掘調査の概要	5
1. 調査の方法と経過	5
2. 造構について	6
3. 遺物について	10
第 III 章 ま と め	17

挿 図 目 次

第 1 図 地形及び発掘区設定図	3
第 2 図 3トレンチ土層図	6
第 3 図 天水桶実測図	7
第 4 図 北西茶畑部分発掘区実測図	8
第 5 図 西の丸台地西側斜面発掘区実測図	9
第 6 図 南西茶畑部分発掘区実測図	11
第 7 図 南西茶畑部分石垣実測図	13
第 8 図 出土遺物実測図	15

図版目次

- 図版 1 1. 西の丸北側部分調査前風景（西より）
2. 北西茶畠部分調査前風景（南東より）
- 図版 2 1. 北西茶畠部分より西の丸を望む
2. 南西茶畠部分調査前風景（北東より）
- 図版 3 1. 西の丸北側部分トレンチ設定状況(1)（西から）
2. 西の丸北側部分トレンチ設定状況(2)（東から）
- 図版 4 1. 北西茶畠部分発掘区全景（南東より）
2. 同南西隅集石遺構（東より）
- 図版 5 1. 井戸曲輪天水桶（南より）
2. 西の丸西側斜面登り口想定部分（北西より）
- 図版 6 1. 南西茶畠部分発掘区(1)（東より）
2. 南西茶畠部分発掘区(2)（北東より）
- 図版 7 1. 南西茶畠部分石垣(1)（南西より）
2. 南西茶畠部分石垣(2)（東より）
- 図版 8 1. 南西茶畠部分石段状遺構（南より）
2. 南西茶畠部分門想定部分（北より）
- 図版 9 1. 作業風景(1)（北西茶畠付近）
2. 作業風景(2)（西の丸西側斜面）
3. 作業風景(3)（南西茶畠部分石垣付近）
- 図版 10 出土遺物(1)
- 図版 11 出土遺物(2)
- 図版 12 出土遺物(3)

第Ⅰ章 昭和60年度の事業概要

1. 土地の公有化事業

横須賀城跡の第一次公有化計画地域である本丸の丘陵地 32,694.38 m²は、昭和57年度より買い上げを行い、昭和60年度では 4,926.4 m²、30,000 千円の買い上げが実施され、計画地域の92%の公有化が終了した。

2. 発掘調査事業

東大手門跡の発掘調査

横須賀城には、東大手門と西大手門の二つの大手門があった。中でも東大手門は、天守台のある本丸や北の丸、三の丸等を控えて、城の正面玄関としての役割を担っていたものと思われる。しかし、明治維新による廃城以降、住宅地となって、T字型に道路が交叉して作られ、何回か拡幅舗装されるなど、その所在は明らかではなくなっている。本年度の発掘調査はその中の住宅の一戸が老朽化のため建て替えを実施することによる現状変更に伴うものである。その経緯、内容については、「史跡横須賀城跡 東大手門跡発掘調査報告書」（1986年3月刊 大須賀町教育委員会）にまとめられている。

公有化地域の発掘調査

この地域の発掘調査は、復元整備に備えて実施するもので、昭和59年度においては「本丸西側部分の遺構残存状況」「本丸北側の土塁の構造と残存状況」「天守台の構造と残存状況」についての確認を目的に発掘調査を実施し、その概要がまとめられた。

本年度は、2年目にあたり、西の丸台地の西側と北側部分で調査が行われた。通称「藏跡」「井戸曲輪（城主西尾氏の火消し家紋の刻まれた、タタキの天水桶が残っている）」「姫御殿」と呼ばれている地域で、調査対象面積 5,172 m²を約1ヶ月半に亘って実施した。その概要は本書の第Ⅱ章に述べられている。

3. 整備委員会及び保存に係わる会議等

59年度に発足した整備委員会は、発掘調査と復元整備について、具体的に指導、立案いただく目的があり、発掘調査の前後に2回開催した。なお、その他にも、横須賀城の保存に係わる諸事項について、次のような会議において、検討・協議が行われた。

昭和60年5月23日 第1回城跡保存推進委員会

昭和60年7月25日 第1回整備委員会

昭和60年9月12日 第2回城跡保存推進委員会

昭和60年10月30日 第2回整備委員会

昭和61年1月10日 松尾町懇談会

4. 伐開法面除草工事

松尾山、から堀の一部など、山林、原野の現状であるが、本年度も伐開管理を実施し、さらに本丸、西の丸等の丘陵地の法面の景観維持のための除草工事を7月と10月とに実施した。

5. 現状変更等一覧及び固定資産税の減免

59・60年度の現状変更の件数は下記の通りである。

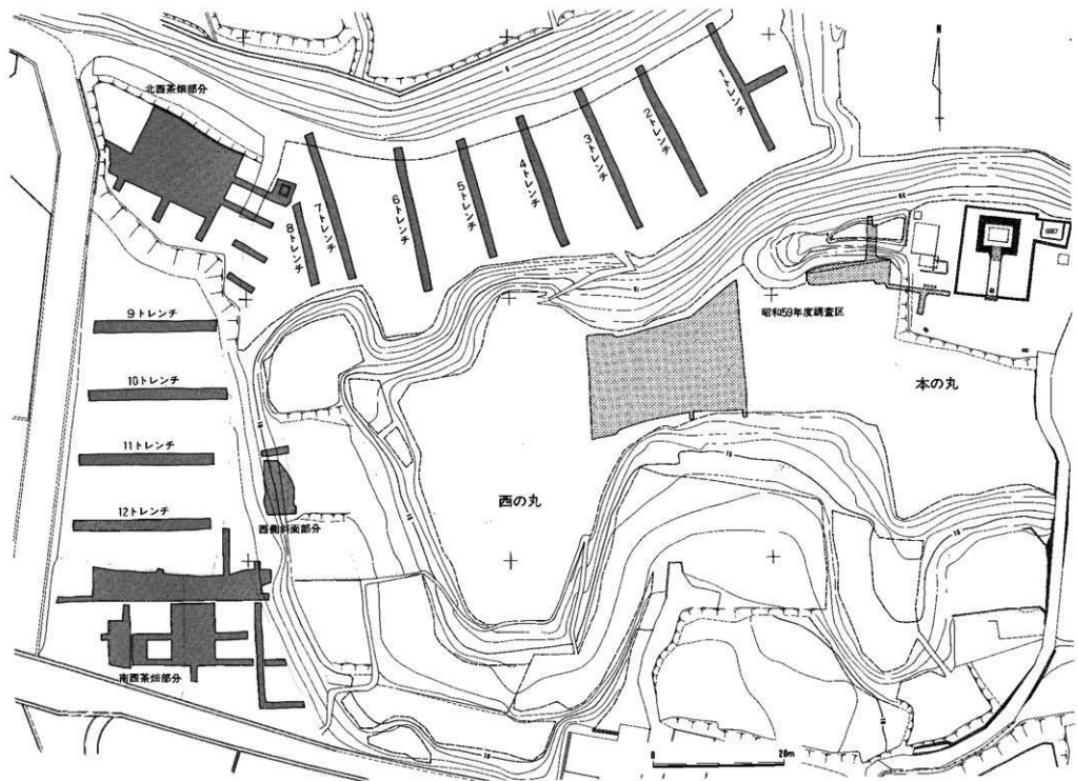
年 度	申 请 件 数	住 宅 増 改 造	作 業 所・倉 蔵 改 造	工 場 增 築	道 路・側溝 改 修	看 板 等	そ の 他
59	11	5	1	2	2	1	0
60	7	2	2	1	0	0	2

保存管理基準の策定されているB地区の現状変更の申請については、申請者の実情をふまえ、関係諸機関と協議を行うなど、住民の日常生活維持と保存との調整の中で、たいへん苦慮した点である。

固定資産税の減免

横須賀城跡の指定地総面積の168,419.64 m²の内、保存管理基準では、A地区の67.3% (113,280.63 m²) B地区6.7% (11,303.35 m²) C地区26% (43,835.66 m²)に区分し、それぞれの規制内容を表記している。

大須賀町では「税条例」を改正し、A地区的土地の固定資産税を全額免除、B地区は半額免除、C地区は免除なしとして、昭和57年度より施行している。昭和60年度の申請者は64名で還付金額は629千円であった。



第1図 地形及び発掘区設定図

第Ⅱ章 発掘調査の概要

本年度の史跡横須賀城跡の保存修理事業に伴う発掘調査は、当初、松尾山を中心に行う予定であったが、町側の希望と今後の整備計画を検討する中で、西の丸台地の西側及び北側（通称「姫御殿」「藏跡」「井戸曲輪」と呼ばれている部分）をその対象とすることとなり、昭和60年9月17日から11月2日までの約1ヶ月半行われた。発掘調査の体制は以下の通りである。

調査主体	大須賀町教育委員会
調査指導	斎藤 忠（大正大学名誉教授）
	小和田 哲男（静岡大学助教授）
	高瀬 要一（奈良国立文化財研究所）
調査員	及川 司・山田 元広（県教育委員会文化課）
調査事務	大須賀町教育委員会事務局

1. 調査の方法と経過

今回調査の対象とした部分は第1次公有化地域の中でも特に後世の改変の著しい所であり、通称「姫御殿」と呼ばれた二の丸と西の丸の台地に挟まれた部分については、絵図や古い時期の写真にみられる高まりが、昭和50年頃土取りのため削平され、最近までゲートボール場となっていた。また、西の丸の台地の北側部分（通称「井戸曲輪」）についても、同じ頃土地改良のために重機が入っており、かなりの改変が行われている。こうした状況を踏えて、調査はトレンチ調査を主体として、遺構の残存状況を確認することとし、後世の改変が少なく、比較的遺構の保存が良いと考えられる北西部及び南西部の茶畑となっている部分については、遺構の検出状況によって隨時発掘区を拡張することとした。なお、現地における実測用の杭及びベンチマークは昨年度の事業の中で設置した基準点を基に測量・設定した。

＜調査の経過＞

発掘調査は9月17日より開始した。まず、調査前の現況写真撮影を行う。その後、西の丸北側部分よりトレンチを設定、掘り下げを開始する。9月20日から10月3日、西の丸北側部分のトレンチ掘り下げと並行して、北西部の茶畑にトレンチを設定、掘り下げ。硬くしまった部分が検出され、その性格を把握するため、発掘区を拡張、精査。また、この期間、測量基準杭の設営等並行して行った。10月4日から10月15日、南西部茶畑部分にトレンチ設定、掘り下げ。ゲートボール場になっていた部分と茶畑の境付近に石垣を検出、その全容をつかむため、発掘区を拡張、精査。また、絵図などで門が存在したと考えられる部分を中心に掘り下げ、精査。はっきりと門跡の遺構と考えられるものは検出されなかったが、河原石のまとまりやタタキ状に硬くしまった部分が検出された。10月15日から10月23日、西側斜面にトレンチを設定、掘り下げ、精査。西の丸への登り口の検出に努める。はっきりとした石段等の遺構は検出されなかったが、斜めに立ち上

がる道状の掘り込みが検出された。なお、これらの作業とともに、隨時、写真撮影、土層実測、平面実測等を進める。10月25日には高瀬先生、10月30日には斎藤先生にそれぞれ現地にて指導を受ける。その後、残された実測等の作業を進め、11月2日には現地調査を終了した。

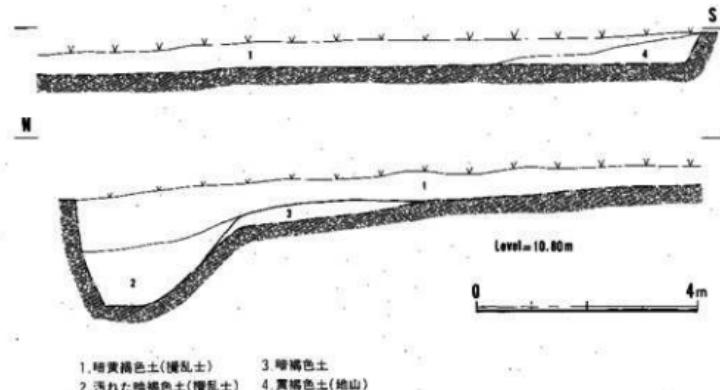
調査中に出土した瓦などの遺物についてはその後、水洗・注記・分類などの作業を行った。

2. 遺構について

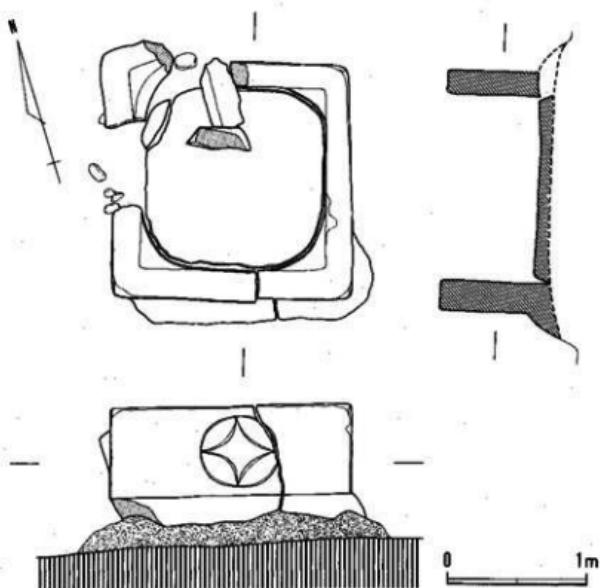
今回調査を行った部分は前述のように後世の改変を大きく受けている所であるが、蕭条と考えられる建物が建っていたと考えられるタタキ状の遺構、石垣、門跡と考えられる遺構、西の丸への登り口と考えられる溝状の遺構等を検出することができた。以下、その概要を区域ごとに述べる。

西の丸台地北側部分（通称「井戸曲輪」）

この部分は、昭和50年頃土地改良のため重機が入っており、大きく擾乱を受けている。このことはトレンチによる土層観察の結果でも確認され、当然の如く、遺構は残されておらず、瓦片が所々に混入する形で出土したにすぎない。しかしながら、本来の外堀の法面と考えられる落ちを検出することができた。その部分には肥料袋、オートバイの残骸などが埋め込んであり、前述の重機による改変の際、外堀の方向へと土を押し、土地を拡張したものと考えられる。こうしたゴミもこの時一緒に埋めたものであろう。



第2図 3 トレンチ土層図



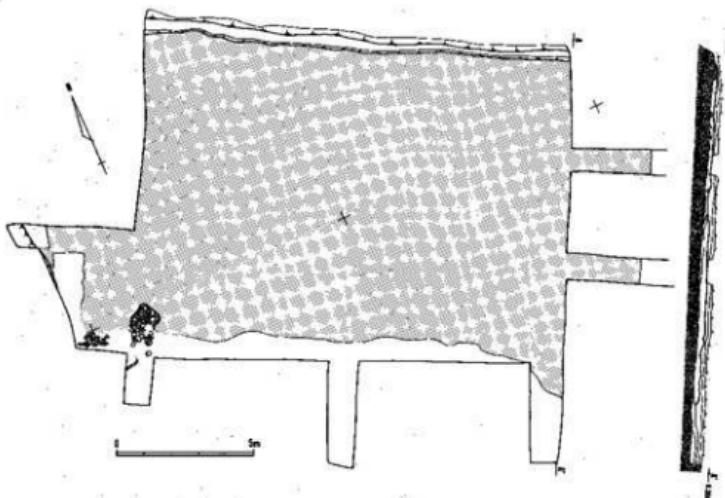
第3図 天水桶実測図

天水桶

西の丸台地の北側部分の西のはずれの一画に井戸と考えられていた施設がある。緻密なタタキで造られており、南側の外面には西尾家の火消し紋がつけられている。現況では北西側の部分が壊れた状態であった。今回計測調査を実施することとし、精査を行った。その結果、底が存在することが判明し、従来言われていた井戸ではなく、天水桶と考えた方が良いであろう。絵図などによれば付近には米蔵などの建物があり、それらの火災対処するための施設と考えられる。一辺170cm、高さ65cm、厚さ20cm、底の厚さは10cmを測る。

北西茶烟部分（通称「藏跡」）

現状では茶烟となっており、後世の改変を比較的受けていないと考えられる部分である。トレンチを入れた結果、南側ほどが地山と考えられる砂層が表土下20cmほどで検出され、北側ほどが硬くしまった暗黄褐色土の層が検出された。このタタキ状に硬くしまった層は何らかの建物と関連するものと考え、発掘区を拡張、その広がりを追求した。その結果東西22m、南北11.5mのほぼ長方形に広がっていることが確認された。しかしながら、その上には礎石など建物の痕跡は検出されなかった。廃城後の耕作などによって、その上部は破壊、削平されたものと考えられる。



第4図 北西茶畠部分発掘区実測図

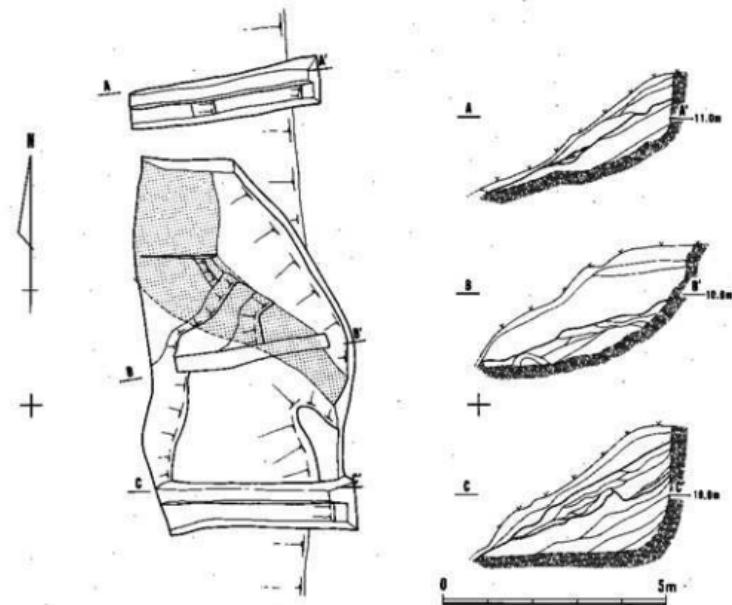
絵図などによれば、この部分には櫓と接続する形の細長い建物が描かれており、このタタキ状のものは、そうした建物の基礎地業的なものと考えられる。なお、本調査区の南西隅に集石及び小さな瓦溜りが検出されたが、集石についてはその性格を明らかにすることはできなかった。あるいは建物の基礎の一部かとも考えられる。

西の丸台地西側部分（通称「姫御殿」）

最近まで、ゲートボール場となっていた部分である。絵図や古い写真をみると西の丸台地の西側斜面との間に通路状の部分を挟んでやや小高い郭状となっている。しかしながら、昭和50年頃、土取のために完全に削平されてしまった。そのことを裏付けるようにトレンチでは地山層とその後ゲートボール場を造るために入れられたと考えられる山土が確認された。

西の丸台地西側斜面

西の丸への登り口を確認するために、絵図などを検討して、想定される部分にトレンチを3本設定し、掘り下げた。その結果、はっきりとした石段などのような遺構は検出することはできなかったが、当時の法面と考えられる面でやや窪む所に、北西から南東方向へ斜めに立ちあがる溝状の遺構を確認した。この部分には陶磁器片が混じっている多量の瓦と小石が堆積していたが、これは、廃城以降、耕作の障害となるこれらのものを、段状になっているこの部分にまとめて廃棄したものであろう。この部分には絵図などをみると階段状のものが記されており、実際もそのような施設一例えは石段一があったものと推定されるが、廃城後取り壊わされ、その痕跡が上記の溝



第5図 西の丸西側斜面発掘区実測図

状遺構とも考えられる。来年度以降、ここからさらに西の丸にかけての発掘調査が行なわれる予定であるので、それらの結果とも併せて、西の丸への登り口の構造については考えていくたい。

南北茶葉部分

南北に3本、東西に3本のトレンチを入れた結果、中央の南北トレンチの北端に石垣の一部と考えられる石列を検出した。そのため北側部分を拡張、その広がりをつかむこととした。石垣は西の丸台地西側斜面の裾部から西へ4mほど延び、そこからやや南向きを変え3mほど延びる。そこから西へ5mほどの間はやや石が雑な状態であるが2段の石段状となっている。これらの石垣に使用されている石は20~50cm大の河原石であり、現状では2段から4段積み上げられていた。また斜面の裾の部分で南に直角に折れ50cmほど続いているが、それ以上には延びていない。この石垣は西の丸台地の南側に広がる郭と通称「姫御殿」と呼ばれる部分の境の部分の石垣であり、当然北側の方が高くなっているため、その腰の部分に築かれたものであろう。とすれば、石段状となっている部分は南側の郭から北側へと接する部分と考えられる。しかしながら、土取りの際にその上部は削平され、門などの痕跡は失なわれ、かろうじてその下部の2段の石段が残っ

たものと考えられる。また、この石段部分より西側についてであるが、溝状の造構が西へと延びている。中からは瓦片などが出土しているが、この溝状造構は、あるいは石垣を抜き取った跡ではないかと考えられる。

ところで、この南西茶畠部分には、絵図によると、二の丸から本丸・西の丸の南側の郭へと通じる門が存在する。西側に設定した南北トレンチのやや南側の部分に集積及び40cm大の扁平な石が検出されたため、門跡に関連する造構と考え、発掘区を拡張・精査を行った。扁平な石の南側に幅2mの範囲で黄褐色土の硬くしまった面が西へ延びている。また、その南側は瓦・礫などが混入した暗褐色土となっている。耕作などによりかなり搅乱されており、はっきりとはしないが、硬くしまった部分が通路であり、その両側の石などが門の基礎に使われたものではないかと考えられる。また、発掘区の中央部分に硬くしまった面が広がるが、その性格についてははっきりとさせることができなかった。

3. 遺物について

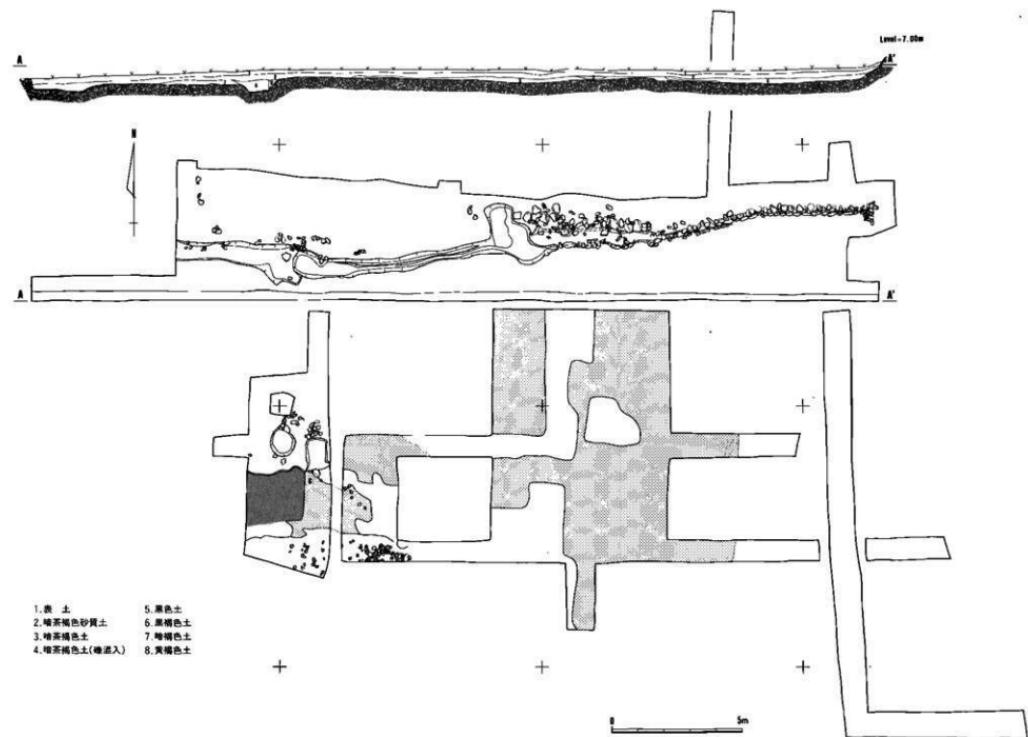
今回の調査では、瓦・陶磁器・鉄製品などが出土している。その大半は西の丸台地の西側斜面の登り口推定部分の瓦窓からの出土である。以下その概要を述べる。

瓦（第8図1～6、図版10）

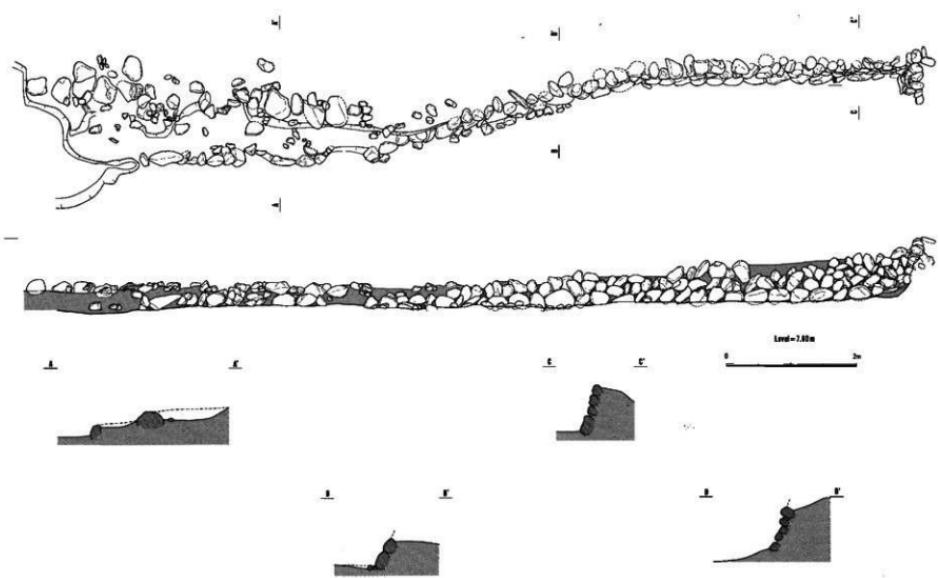
西の丸台地の西側斜面の部分を中心に肥料袋で100袋を越える量の瓦が出土している。その種類も豊富であり、軒丸瓦・軒平瓦・菊丸瓦・丸瓦・平瓦・棟瓦・鬼瓦などがある。西の丸にあった建物などに使われていたものと考えられる。軒丸瓦については、本多家の家紋である「立葵」、西尾家の「櫛松」のものや巴文のものがみられる。そうした中で①は「立葵」の軒丸瓦であるが、葉の形が横に扁平なものとなっている。②は「櫛松」の軒丸瓦であるが、今まで出土したものの中の本数が9本であるのにこれは7本となっている。軒平瓦については、いろいろと出土しているが、⑤のような文様のものもみられる。菊丸瓦についてはそのほとんどが菊の文様をもつものであるが、③のように巴文のものも今回出土している。また、「九曜」の紋の文様をもつ棟瓦④もある。こうした中に刻印のあるものも何点かみられる。「奉」「西奉改」などの刻印があり、瓦の製造にあたった者の印と考えられる。また、ヘラ書きの文字のある平瓦⑥も確認された。「元文三戊午□」と記されており、瓦の製作時期のはっきりする例である。元文三年は1738年であり、西尾藤崎守忠尚が城主であった時である。年号の記された瓦は、昨年度の発掘調査でも「天保六」とヘラ書きされた鬼瓦片が出土している。また、本年度行なわれた現状変更に伴う東大手門跡の発掘調査においても「元文」とヘラ書きされた瓦が出土している。鬼瓦については「櫛松」の紋が施されたものも含めて、何種類かみられるようである。

鉢（図版11-1）

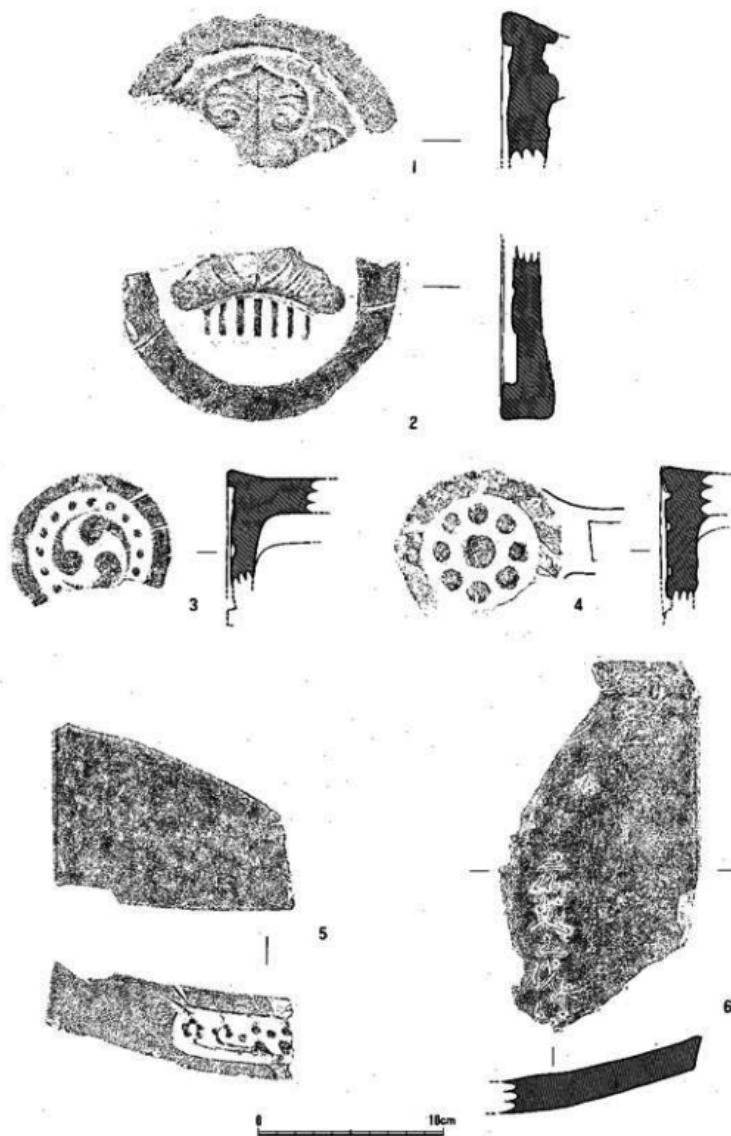
刀の鉢が西の丸西側斜面の瓦に混じって1点出土している。△ほど欠損しており、全体に錆びているためはっきりしないが、透しの文様をもつものである。長径5.9cm、厚さ0.5cmを測る。



第6図 南西茶園部分発掘実測図



第7図 南西茶園部分石垣実測図



第8図 出土遺物実測図

陶磁器（図版11・12）

西の丸台地の西側斜面の瓦溜りから、瓦・小石に混って、陶磁器片が出土している。その中に18~19世紀の伊万里のものと考えられる染付・青磁などが多く含まれている。これらの伊万里焼については比較的良質なものが多く、城内で使用されたものであろう。他に美濃瀬戸のもの、地元の志戸呂のものもみられる。図版12-1は建水の蓋かと考えられるものであるが、その裏側に「ウヤシラ」と墨書きされている。その意味については今のところ、はっきりしない。

＜付記＞ 陶磁器については財團法人静岡県埋蔵文化財調査研究所の足立順司氏にご教示いただいた。

第Ⅲ章 まとめ

史跡横須賀城跡の保存修理事業に伴う発掘調査も2年目を迎えた。本年度については西の丸台地下の北側から西側の部分を対象に行なった。本年度、調査の対象とした部分は他の箇所に比べ、後世の改変を大きく受けている所であり、その遺存状況はあまり芳しいものとはいえないが、そうした中でもいくつかの成果をあげることができた。

1. 北西の茶烟部分では、建物があったと考えられるタタキ状の遺構が検出された。
2. 南西茶烟部分では、石垣と石段状の遺構が検出された。また、その南側では門跡と考えられる部分が検出された。
3. 西側斜面に西の丸への登り口と考えられる溝状の遺構を検出した。しかしながら、この登り口については今後の調査の結果も踏えて慎重に検討する必要がある。

本年度については以上のような成果を得たわけであるが、これらは今後の横須賀城跡の保存・復元整備を進めていく上で重要な基礎資料となるものである。むろん、今後の調査で解明していくなければならない課題も多い。こうした状況の中で、横須賀城跡の保存・復元整備の事業は発掘調査等による基礎資料を踏まえた長期的展望に立って遂行されなければならないことを感じた次第である。

図 版





1. 西の九北側部分調査前風景（西より）



2. 北西部分茶畠調査前風景（南東より）



1. 北西茶畑部分より西の丸を望む



2. 南西茶畑部分調査前風景（北東より）



1. 西の丸北側部分トレンチ設定状況(1) (西から)



2. 西の丸北側部分トレンチ設定状況(2) (東から)



1. 北西茶畠部分発掘区全景（南東より）



2. 同南西隅集石遺構（東より）



1. 井戸曲輪天水桶（南より）



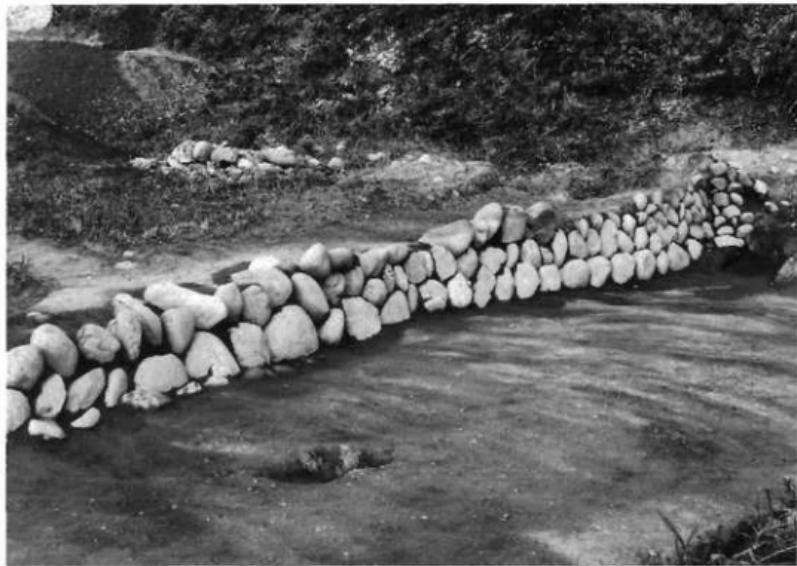
2. 西の丸西側斜面登り口想定部分（北西より）



1. 南西茶畑部分発掘区(1) (東より)



2. 南西茶畑部分発掘区(2) (北東より)



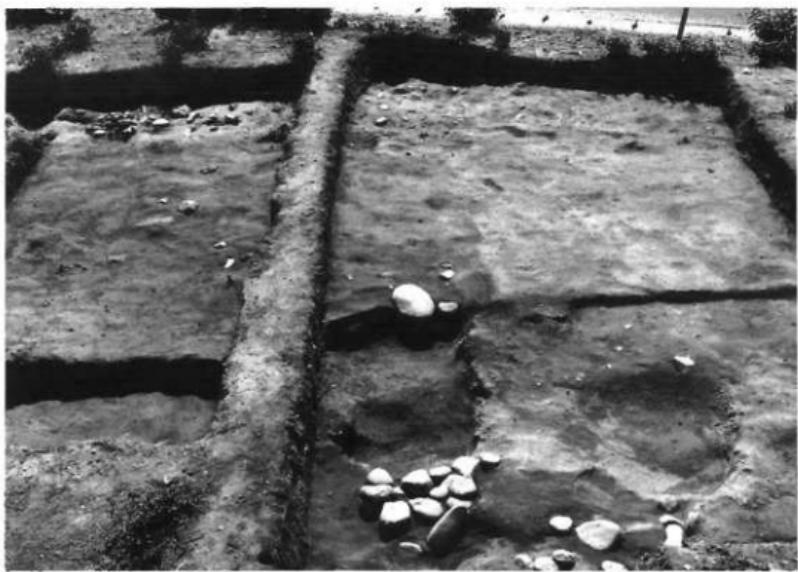
1. 南西茶畠部分石垣(1) (南西より)



2. 南西茶畠部分石垣(2) (東より)



1. 南西茶畠部分石段状造構（南より）



2. 南西茶畠部分門想定部分（北より）



1. 作業風景(1) (北西茶畠付近)



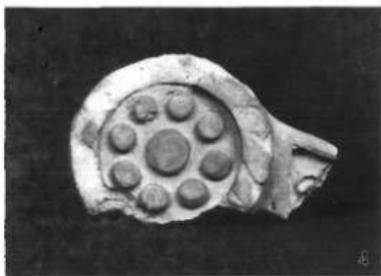
2. 作業風景(2) (西の丸西斜面)



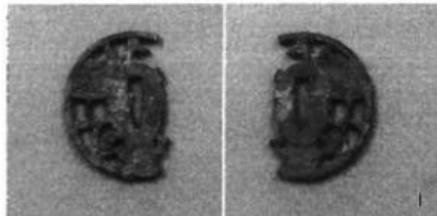
3. 作業風景(3) (南西茶畠部分石垣付近)

出土遺物 (II)

図版
10



出土遺物(2)

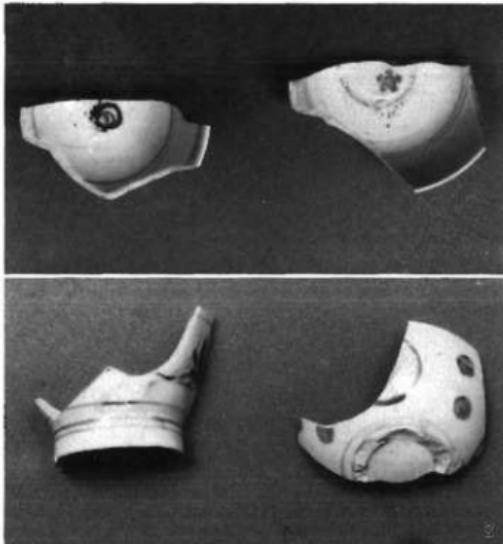
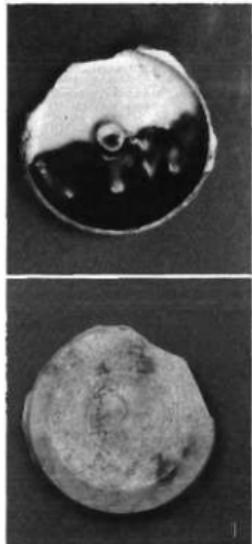


図版
11



出土遺物(3)

図版
12



史 跡 横 須 賀 城 跡 Ⅱ

昭和61年3月31日

編集行 大須賀町教育委員会
印刷所 株式会社 三創
静岡市中村町 166-1
電話 (0542)82-4031 #4

